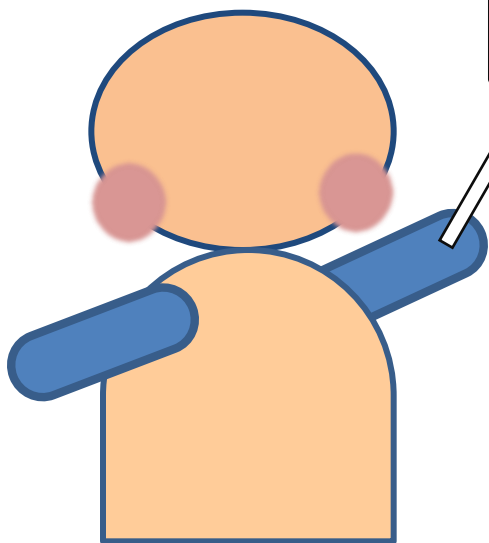


安全な輸血への取り組み

近畿大学医学部附属病院
輸血・細胞治療センター

はじめに

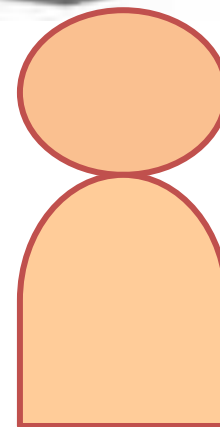
輸血をする血液が、患者様に届くまでの流れと安全に対する取り組みについて説明します。



輸血が必要に
なったら

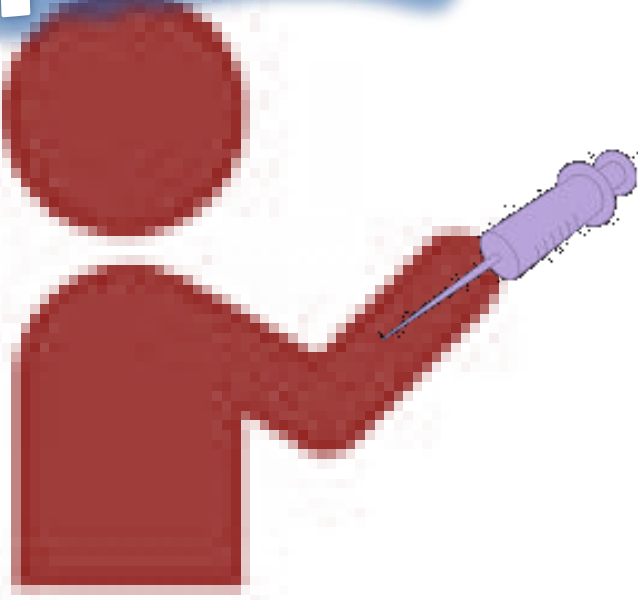


輸血しましょう



**担当医が輸血の必要性和副作用などの説明を行います。
患者様に納得して頂ければ、輸血同意書を作成します。
輸血依頼が出され、検査用採血の依頼を行います。**

採血



血液型

輸血検査

輸血前保存

(当院の場合)

輸血に必要な採血(場合によって必要でないものもあります。)

血液型 = ABO血液型とRh(アールエイチ)血液型を検査します。

輸血検査 = 輸血前に、輸血製剤に反応する免疫機能(抗体)が体内に存在するのかが検査します。

輸血前保存 = 輸血後に感染症を発症した場合、輸血前に採血した検体を用い発症時期が輸血前か後かを特定します。

検査

血液型

全自動輸血検査装置

△型

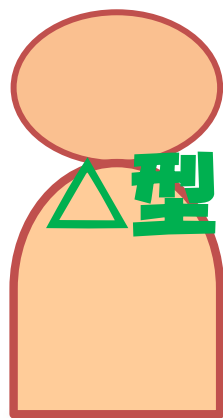
電子カルテ

血液型

輸血検査

全自動検査装置で検査を行い、臨床検査が技師が最終判定を行います。検査結果は電子カルテに直接転送します。入力間違いなど、人の手を介する間違いを防ぎます。

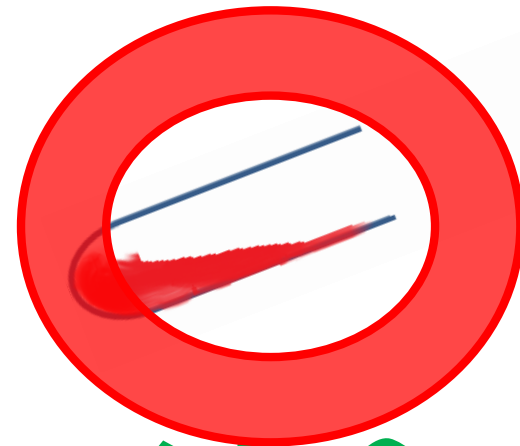
交差適合試験



患者様



ドナー



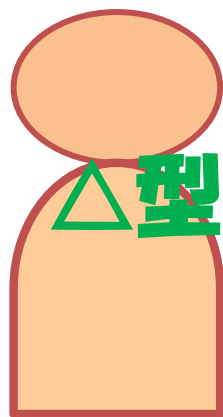
凝集
(-)

適合

(交差適合試験とは)

輸血する血液製剤(ドナー血液)と患者様の血液を試験管の中で反応させ、輸血しても問題がないか確認します。
凝集(血液が固まる事)が起きなければ、適合とし合格です。

交差適合試験



患者



ドナー



凝集
(+)

不適合

(凝集が見られる時)

患者様の体内に、血液製剤に対する抗体(免疫機能)が存在する場合は、凝集が見られます。交差適合試験は不適合となし輸血できません。抗体がどのような種類のものなのか原因の調査を行います。

抗体の詳しい検査



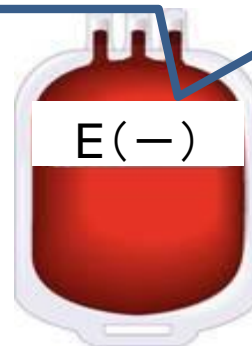
抗[?]抗体

様々な血液と反応させ、
抗体の種類を特定



抗^E抗体

抗体の種類が判明したら、
反応しない血液を輸血します。
(例の場合、抗E抗体なので
Eという血液型がマイナスの
血液が適合です。)



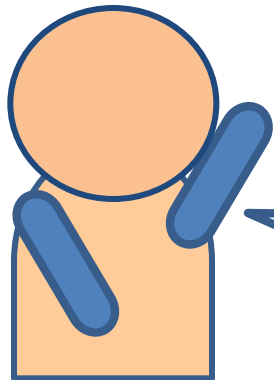
(抗体が見られる時の対応)

抗体(正確には不規則抗体と言います。)は様々な種類があります。
反応のあった抗体がどの種類なのか検査します。
種類が判明したら、その抗体と反応しない血液輸血します。

抗体が陽性になった時

抗体(不規則抗体)が検出された場合は以下の事が重要になります。

- 1、抗体と反応しない血液を輸血する。
- 2、一定の期間で抗体が検査で陰性になるが、輸血は引き続き反応しないものを使用し続ける。
- 3、女性の方は妊娠した場合、産科医師に必ず相談する。
赤ちゃんに影響する場合があります。



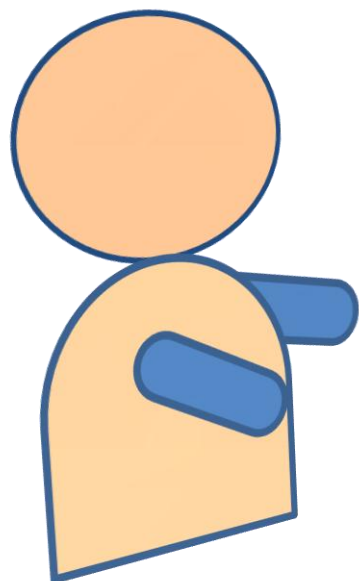
抗体が検出された場合には、詳しい説明をおこないます、また抗体の情報を記載したカードをお渡しします。
このカードは、**病院で輸血・手術を受ける場合に必ず医師に提示して下さい。**

血液製剤出庫

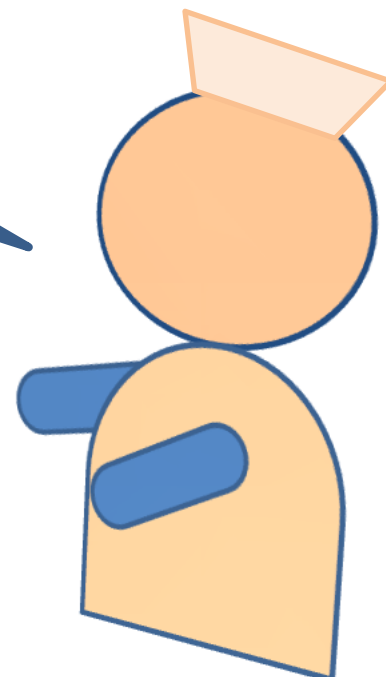


検査が終了したら患者様の名前などを印字したラベルを製剤に貼付します。その際、臨床検査技師2名で読み合わせを行います。

血液製剤出庫



近大 太郎さん
△型赤血球2単位
○○-○○○○-○○

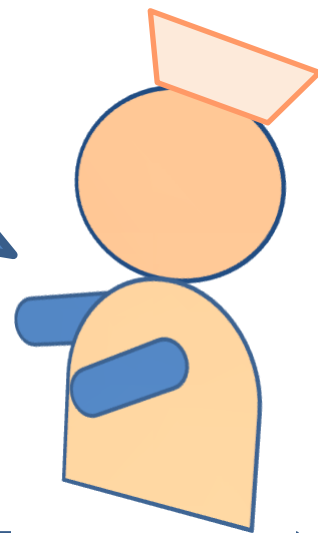


検査室から病棟に血液を出庫する時にも、担当者と読み合わせを行い確認します。

輸血をするまえに

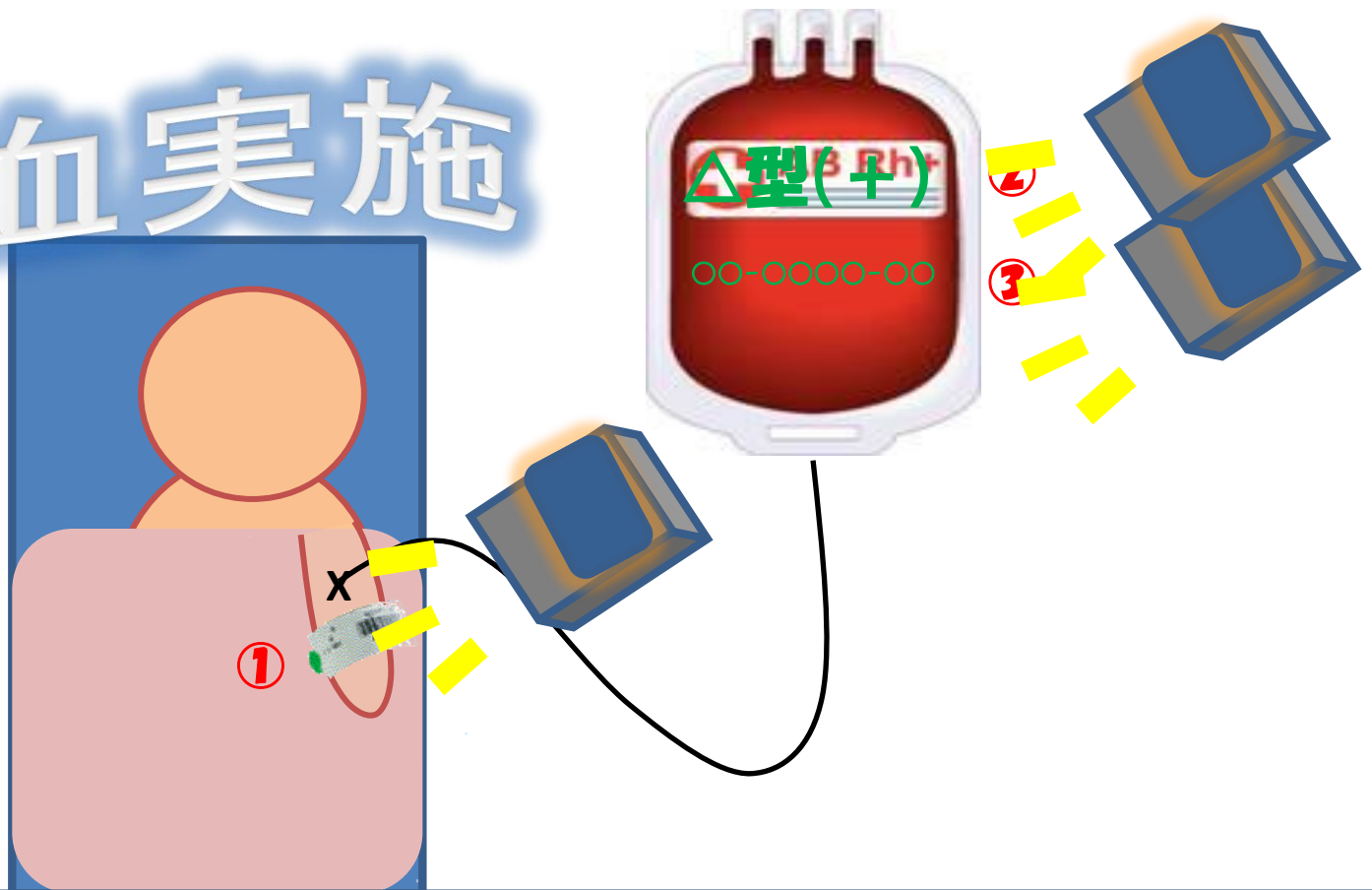


近大 太郎さん
△型(+)
○月○日
○○-○○○○-○○
有効期限
放射線照射



**病棟では医師と看護師の2名で読み合わせを行います。
(患者氏名、血液型、輸血日時、血液製造番号、有効期限)
血液が患者様の基に届くまで、確認を重ねます。**

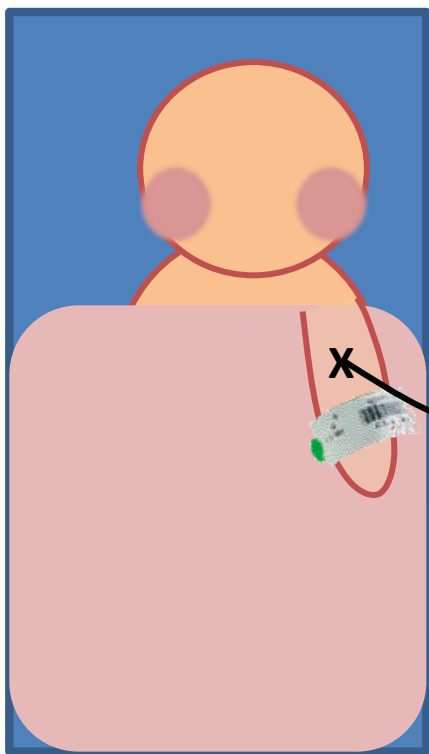
輸血実施



患者様に輸血を直前に携帯端末機器を用いて患者様のリストバンドと輸血製剤の照合を行います。

(①患者氏名、血液型、②製剤種類、③血液製造番号)

この確認により、血液型の確認、製剤がこの患者様のものであるかなど最終確認を行います。

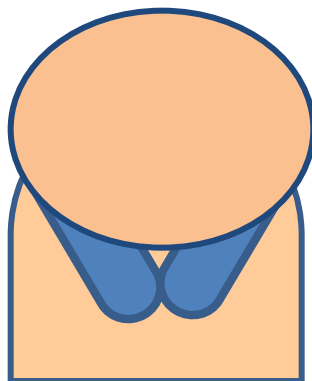


輸血を実施するまでの流れを簡単
にご説明しましたが、ご理解いた
だけましたでしょうか。
この様に、輸血を安全に実施でき
るよう努めてまいります！！
万が一、ご不明な点がございまし
たら、輸血・細胞治療センターまで
お問い合わせください。

『注意とお願い』

紹介した内容は、近畿大学医学部附属病院における輸血の流れです。
他の病院とは異なる場合があります。
他の病院で輸血を受ける場合、必ずその病院の担当医の指示に従って下さい。

また輸血に関する判断は、患者様ご自身では行わず、医師にご相談下さい。



安全な輸血への取り組み

近畿大学医学部附属病院
輸血・細胞治療センター

作成:2012年8月10日
(作成担当者:川野 亜美)